

## 発刊によせて

『ふりかえる裾野』は、『広報すその』の一つのコーナーとして、184回・12年6か月の長きにわたって連載されたものです。

広報紙への第1回掲載は昭和58年4月15日号にさかのぼります。当初、裾野地方の懐かしい思い出を広報紙で紹介してほしいとの要望があり、田口勝夫氏に写真と文章を寄稿していただいたのが始まりです。毎号貴重な写真と軽妙な文章で、戦後の富士山麓の素朴な暮らしぶりが紹介され、『広報すその』の人気コーナーとして多くの市民に愛され続けました。

田口氏の温かい眼差しの感じられる写真は、現代人が忘れかけた素朴な心や、ひたむきに生きることの大切さを、そっと語りかけてくれるようです。時代が昭和から平成に移ってからも、それらが私たちの心に一層強く訴えかけてくるように感じられます。

この本には、昭和20年代後半から、昭和30年代の裾野地方の思い出が凝縮されています。この思い出は、寄稿者・田口氏の思い出のみならず、同時代に生きた人たちの共通の思い出ではないでしょうか。『ふりかえる裾野』の出版が、戦後の裾野地方の風俗習慣を記した読み物として、多くの皆さんが一読され、懐かしい記憶として、21世紀へ伝える貴重な史料ともなりうるものと期待しています。そして、戦後50年の節目の年にあたり、私たちが歩んできた道のりを、振り返っていただく一つのきっかけとなれば幸いです。

終わりに、田口勝夫氏は平成7年8月13日に永眠されました。事実上、『ふりかえる裾野』は、氏の遺稿集となりました。

平成7年10月1日

裾野市長 大橋 俊二



カメラを手にする若き日の田口氏（左側）

## 田口勝夫氏プロフィール

大正7年1月30日、駿東郡小泉村に生まれる。昭和26年4月、小泉村役場に奉職。昭和51年9月、企画調整部長を最後に裾野市役所を退職。その後、行政書士として活躍、昭和61年4月～62年3月富沢区長を務める。

『広報すその』紙上に、昭和58年4月15日号～平成7年8月15日号の間、計184回にわたり『ふりかえる裾野』を連載。平成7年8月13日永眠。

題 字＝裾野市長・大橋俊二

表 紙＝町民体育祭（昭和30年代前半・県立裾野高校グラウンド）

裏表紙＝昭和20年代の御殿場線（深良上原）